



みろく

—MIROKU—

Kambara
Family

No. 18

2021年12月●日発行

ファミリーの文化資産①

臨済宗建仁寺派第七代管長

竹田益州創宗進禪師 禪画 禪語

神原勝太郎が起こした海運業から始まり、神原汽船、常石造船を中心に造船、海運、エネルギー、環境、健康、教育など、さまざまな事業分野を包括する総合企業に発展した常石グループ。

長い歴史の中で、事業展開、あるいは人々とのつながりなどにより、さまざまな美術品や文化財が集まりました。名のある作家の作品があります。作者は無名でも見る人を感動させる素晴らしい作品があります。それらをファミリーの「文化資産」として記憶しておいていただくこと、また次の世代に伝えるべきものとすることを目的に特集を組みました。

それらの作品の「画像」「作品名」「作者」、また可能であれば制作時の時代背景、作者の人となりなども紹介していきたいと思っています。

※作品の価値や価格などには一切触れません。

竹田益州御老師は、若き神原秀夫に、一人の人間として、後には経営者としての生き方、心のあり方に強い影響を与えた「心の師」とも言うべき人物です。その人間的な絆をここで説明す

ると長い物語になりますので割愛しますが、御老師が臨済宗建仁寺派の特例地として発足した宗教法人天心山神勝寺の開山（勸請・開基は神原秀夫）となられたことから、その関係が理解でき

と思います。

そんな意味も含めて、ファミリーと深い縁で結ばれた御老師の禪画・禪書（禪語）など、数々の作品をご紹介します。

禪画とは

禅宗の教義や精神または悟りなど、「心」の中にあるものを素朴な絵に託して表すものです。「禅の心」という形のないものを目に見るようにするための表現方法として、禅宗の僧侶や修行者の手になるものが数多くあります。

時に怪奇なものがあり、時にユーモラスなものがあり、見る者は奥深い禅の世界に引き込まれていきます。御老師は画にも書にも筆の牙えを見せ、多くの作品を残されました。

禪語とは

禅画と同じように、「禅の心」「悟りの概念」などを書として表したものです。

我慢（慢心は我を忘れる）、知足（足を知る）、縁起（他人と交わす一言から世界を知る）、縁起（原因は必ずある）、主人公（正しく生きることが個性）、散る桜残る桜も散る桜（生まれたからこそ死がある）など、私たちが日常使っている会話の中に、禅の世界観を現す言葉が数多く残されています。

御老師が自らの体験の中で強く感じたとおっしゃる仏教関連の熟語の二つに、「忍辱精進（にんにくしょうじん）」という言葉があります。

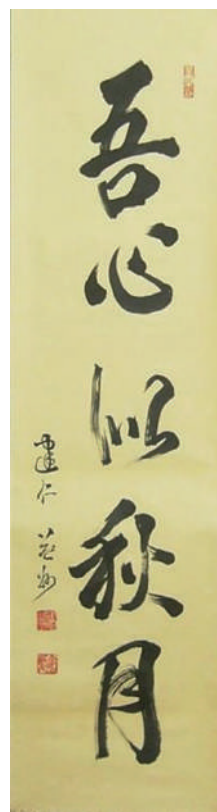
これは、「悲しいことや辛いことがあっても落ち込まずに、その状況の中で最善の努力をすること。それによって良い結果が生まれる。ただし、良い結果が得られたとしてもそれに満足せず、さらに高い向上心を持ち続けなさい」という意味だそうです。

作品紹介 書

御老師と神原秀夫は、深いご縁で結ばれていました。御老師は、開山として深く関わった神勝寺に

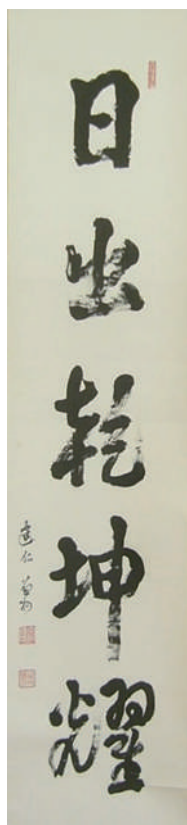
法要や式典などの際にたびたび訪れ、禪の心をはじめとした言葉を気軽に揮毫してくださいました。

書① 吾心似秋月（吾が心秋の月に似たり）



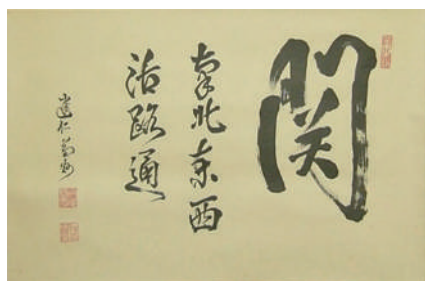
私の心は秋の名月のように雲つなく澄み渡った悟りの境地の中にある。

書② 日出乾坤耀（日の出けんこんよう）



太陽が昇り天地は光輝き、雲は消え失せ山々は青々と見える悟りの境地。

書③ 関（かん）



関所、関門、玄関など、入口のこと。日々精進し関門を乗り越える努力を重ねれば、素晴らしい未来が開ける。

書④ 円相（無一物）



一筆で丸い図形を描いたもの。悟り、宇宙、真理などを象徴として表現したものと言います。この書の根底に流れる深い意味やその解釈については、見る人に任されています。

ただ一つ、小さな字で「無一物」とあります。無一物とは、「この世のものは本来『空』であるから、執着すべきものはない。何一つ持たなければ一切のことから解放され自由になれる」という禅の思想の一つです。

作品紹介 禅画

御老師は、画にも筆を振るわれました。どちらかというと荒々しいタッチが多い禅画ですが、御

老師のお人柄か、独特の優しさと柔らかさがにじみ出る画を多く残されました。

禅画① 達磨



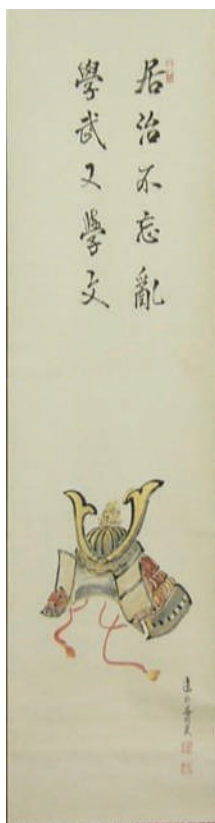
菩提達磨（南インド出身）は禅宗の開祖。禅画の代表的な画題として、多くの禅僧が描いています。「廓然無聖」とは、「聖なる真理などない、と悟りなさい」という意味です。中国南北朝時代の「梁」の武帝との問答の中での達磨大師の回答です。

禅画② 風景画



一切の色彩を排除して、墨だけで描かれた風景画です。描かれているのは、落成当時の神勝寺界隈（みろくの里）の風景ではないでしょうか。じっと見ていると、深い緑が浮き出てくるような気がします。

禅画③ 兜



おそらく、男の子の誕生にちなんだ絵なのではないかと推測されます。禅画とはいえ、鮮やかな色づかいに日本画的なセンスが感じられます。「居治不忘乱 学武又学文」の合計十文字は、「平穩で順調な時でも、万が一のための備えを怠ってはいけない。そのために文武両道の学びに励みなさい」という意味です。

益州御老師の人となりと魅力

神原 眞人

私の父・秀夫の葬儀が、その年の2月に落成したばかりの無明院で行われたのは、1977年3月22日のことでした。この時、導師を務めてくださったのが、東本願寺新門の大谷光紹さんと、臨済宗建仁寺派の管長である竹田益州御老師のお二人でした。益州御老師は、それほど神原家とご縁の深い方だということをし、心に留めておいてください。

で美味しそうに般若湯を楽しんでいた御老師は、私の戸惑いや悩みに対し、一言だけ返してくれました。「鯛の刺身と豆腐で般若湯を楽しめるのだから、不景気とは言えない」

当時32歳だった私は、この言葉にハツとして未来を見ることができるようになった。深い意味は今でも分かりませんが、「悩むな」という意図で、あるいは御老師の座右の銘とも言うべき「忍辱精進」という意味で、私を励ましてくれたのだということは理解できるようになりました。

とにもかくにも好々爺。「笑顔が何とも可愛くて、子どもが好きなおじいちゃん」というのが、私ばかりでなく、一度でもお会いしたことのある人たちが共通して持つ印象だと思います。

この頃、造船業界は不景気の真つただ中にあり、他の造船会社同様に常石造船のクレーンにも赤錆が出るほどの状況だったのです。好物の豆腐と鯛の刺身



成人おめでとうございます

二十歳を迎えた神原千琴さん、藤原将洋さん、神原秀丞さん、
そして親御さんからお言葉をいただきました。

今までとは違う私に

✎ 神原千琴さん



20歳になりました。まず初めに、ここまで私に関わってくださったすべての人に感謝の気持ちを伝えたいです。生まれてすぐに反抗期を迎え、幼少期は人を恨んで生きてきました。アルバムを見返すと、大体つり上がった目でカメラを睨みつけています。鳥かごの制作で、くぎを数え切れないほど刺し、大人をドン引きさせたこともあります。

そんな闇を抱えた私も、こんなに真っ当で素敵な人間に成長しました。今では大学に進学し、勉学に励んでいます。笑ったり、泣いたり、怒ったり、悩んだり、そんな人間らしい日常を送ってこられたのも父と母のおかげです。

私にたくさん経験をさせてくれました。20年という長い年月を何不自由なく生活させてくれました。これ以上ありがたいことはありません。今まではただ父と母にお世話になっていた私ですが、成人という節目を迎えて、これから両親に恩返しをしていけたらと思っています。

まだまだ止まらない私の成長をこれからも見届けてください。

母より

Dear ちいたん

はあ、20歳ですか。このため息は感嘆の意を込めてです。貴女の文章を読んだ時、素晴らしい人に育ってくれたと思いました。強さの中に笑いと優しさが込めてあって、さらにしなやかさも品性も垣間見える。素晴らしい女性に成長しましたね。

それは今も忘れない、おかつぱ頭の小さな背中に飛び蹴りを食らわしたママ、そのおかげですか？ シン仮面ライダーもびつくりです。本当にごめんなさい。

パパとママは、貴女たちのおかげでそれなりの親にしてもらいました。世間で通用するかは分かりませんが、

いつも学びを、喜びを、苦しみを、憂いを、恩恵を、ありがとうございます。よく20年という長い年月を、健やかに生きてくれました。

愛しきちいたん、これからもっと素敵な人になるのでしよう。パパとママを選んでくれて、本当にありがとう。貴女たちの存在が、パパとママの生きた証です。何もいない、だから、これからも健やかであってください。

20歳おめでとう！

両親に恥じない成人に

✍ 藤原 将洋さん

無事に成人を迎えられたことを嬉しく思います。ここまで育ててくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。両親に恥じない成人になれるよう日々努力を忘れず過ごしたいです。



両親より

二十歳になった将洋へ
成人おめでとう。そして、立派に育ってくれてありがとう。
これから将洋の良き理解者でありたいと思っています。素敵な人生を送れることを願っています。

20歳おめでとう

✍ (達也・知子より)



神原 秀丞さん

両親より

2002年3月5日に生まれてきてくれてから、もう20年。

秀丞が育つとともに、私たちも親として試行錯誤しながら、ともに育ってきたと思います。親も何事も初めてで弟妹たちよりも厳しくしたかもしれないけれど、その分しっかりと自分というものを持って成長し、弟妹の面倒を見たり、小学校高学年から中・高、さらに現在まで卓球に打ち込んでいたり、進路・進学についても自分で考えてきたりと、頑張ってきたと喜んでいます。

今後、大人として自分の行動に責任が必然的に伴うようになりますので、家族・親戚にも協力してもらいつつ、より一層、人間的に大きく成長することを期待します。
20歳おめでとう。



今『友達と遊ぶこと』に夢中です!

第5世代の方に、自分が「今」
好きなものを自由に紹介してもらいます。

神原 小百合さん



私が今ハマっていることは、友達と遊ぶことです。今私は中学2年生なのですが、1年生だった頃はあまり学校生活に慣れていなかったというもあり、友達と遊ぶということはかなり少なかったのですが、1つ学年が上がり、学校生活や勉強にも少しずつ慣れ、友達と遊ぶ機会が増えたと思います。最近ではたまに学校の放課後に駅へ行って遊んだりしています。

他にも学校の行事の遠足で、しまなみ海道を18キロ歩くというのがありました。18キロ歩くというのは正直とても大変だと思っていたけれど、友達と楽しみながら歩いていたので全員完歩することが出来ました。また、ゴール地点が海岸だったので、クラス全員で体操服で海に入りました。10月頃に行ったので少し寒かったけれど、とてもいい思い出になりました。

来年は中学3年生になるので、勉強と部活を両立させるよう頑張りたいと思います。



>>> 次回は、
神原 璃穂さんに
リレーします。
お楽しみに!

